

ヤマトタケルは加古川で生まれ、故郷の日岡神社に摂社が完成した

摂社とは、「本社に縁故の深い神を祀った神社。本社と末社の中間に位し、本社の境内にある境内社と境外にある境外社がある」

ヤマトタケルは兵庫県加古川市生まれ 母は播磨稲日大郎姫 2019.6.25

<http://www.alchemist.jp/Blog/190625.pdf>

神戸新聞 2020.5.22

いままでかなり活発にヤマトタケルを加古川の生まれであると喧伝していたと思ったのだが、今まで加古川ではまつられていなかったとは知らなかった。

建部大社 (Wikipedia)

祭神

本殿: 日本武尊(やまとたけるのみこと)

社伝では、日本武尊の死後の景行天皇 46 年、日本武尊の妃・布多遲比売命が神勅によって、御子・建部稲依別命とともに住んでいた神崎郡建部郷千草嶽(現在の東近江市五個荘伊野部町付近の箕作山)の地に日本武尊を「建部大神」として祀ったのが創建とされる[2]。建部郷の「建部」の名は日本武尊をしのんで名代として名付けられたことに因むといい、他にも各地に設けられている。



加古川
 日岡神社(加古川市加古川町大野)の境内に、同神社にゆかりがあるヤマトタケルを祭る摂社が完成した。み霊を納める神事が20日に執り行われ、宮司や総代ら10人が参列した。

ヤマトタケルの母が出産する際、同神社主祭神の天伊佐比古命が安産を祈ったという伝承が残る。神社近くの住宅街には、ヤマトタケルの産湯に使ったとされる石のたらいも現存している。

同神社は今年、現在の東

ヤマトタケルを分祀した
 摂社 日岡神社

播地域を中心とした神社が11年ごとに持ち回りで開く「国恩祭」の当番だった。記念事業として境内に石のたらいの複製を設け、摂社も完成させた。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、16、17日に開いた国恩祭の内容は縮小していた。

宮司と総代が、ヤマトタケルを祭る建部大社(大津市)まで赴き、分祀の神事を行った。「唐櫃」と呼ばれる箱に入ったみ霊を日岡神社まで持ち帰り、境内で神事。摂社に唐櫃を入れ、神職が祝詞を奏上した。



総代会長の喜多山豊和さん(76)は「神社を訪れた人にヤマトタケルと神社の関係を知ってほしい」と話した。(小森有喜)